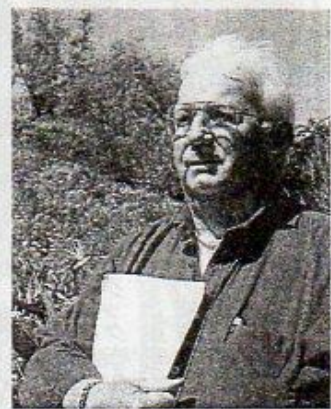


「障害認定早く」市民団体提訴

「この国はベトナム戦争のころと同じ歴史を繰り返そうとしている」。米カリフォルニア州サンタバーバラ市に住むボブ・ハンディさん(76)は、市民団体「真実のために団結する帰還兵」(会員1300人)の代表として07年7月、米退役軍人省を相手取り訴訟を提起した。求めたのはただ一つ。イラクやアフガニスタン

戦争の帰還兵に対し「治療や障害認定を適正に、心的外傷後ストレス障害(PTSD)や

迅速に進めることだ。



「裁判を通じて、若い帰還兵が抱える問題を伝えたい」と話すハンディさん。米カリフォルニア州サンタバーバラ

負の歴史繰り返すな

「障害認定に対する不服申し立てはわずか1割だ」と反論した。だが帰還兵が同省の不服審査会に訴えてから結論が出るまでには3年近くかかる。不満があっても「訴える余裕がない」(ハンディさん)のが現実だ。障害補償の認定に時間がかかり、住宅ローンが支払えず、自宅を失う人もいる。米国ではホームレスの4人に1人は帰還兵だ。米CBSテレビの調査によると、05年に自殺した帰還兵は6250人以上。毎日17人が命を絶った。

テロ戦争特有とされる外傷性脳損傷(TBI)や



テロとの戦いと米国

第2部 疲弊する兵士

心的外傷後ストレス障害(PTSD)をわずらった帰還兵が見えない傷ゆえに誤診されたり、障害認定を受けられないケースが続出している。患者が殺到し、初診は平均1カ月後。障害認定にも半年前後待たされる。裁判で、退役軍人省は「必要なら最高裁まで戦う。若い帰還兵たちの置かれている状況を知らせたいから。それが私の役目だ」。ハンディさんが軽やかに笑った。【米カリフォルニア州で大治朋子、写真も】

軽視される帰還兵支援予算

「大統領は兵士が兵役にとどまるために、奨学金は不十分な方がいいと考えている」。米ニューヨーク・タイムズ紙は昨年5月、社説で当時のブッシュ大統領を批判した。米上院では当時、帰還兵の奨学金制度を大幅に改善する法案が審議されていたが、大統領は拒否権も辞さない姿勢で猛反対した。奨学金を増額すれば帰還兵の大学進学率が高まり、「兵役に戻る割合が16%減少する」（米議会予算事務局）との推計に懸念を抱いていたという。対テロ戦争では、6人に1人が3回以上派遣されるなど、兵員不足が深刻化しているからだ。法案を提出したのはベトナム戦争帰還兵のウエ



「帰還兵の問題は、政治家が愛国心をアピールする道具じゃない」と話すクックさん
＝米カリフォルニア州サクラメント

同州議員に民主党から立候補（落選）した。帰還兵の問題に取り組みたかったという。78年に海兵隊を除隊。高校教諭を務めたが、軍の奨学金で89年まで三つの大学で修士号を取った。だがそれ以来、

同省は事務処理の迅速化のため約10年前からIT（情報技術）化予算の増額を求めているが、むしろ減額されている。市民団体「米国のイラク・アフガニスタン帰還兵」のリコフ事務局長は、「人口に占める従軍兵の割合が低下し、メディアや国民の関心が弱まっている」と話す。割合は第二次世界大戦当時は12%、ベトナム戦争では4%だったが、対テロ戦争では0.6%にすぎない。

「国民には人ごと」

ブ上院議員（民主党）ら。審議が大詰めを迎えた同

月中旬、ウエブ議員は「拒否権を使うなら、秋の大統領選の争点になる」と揺さぶった。共和党の「愛国心」を批判する戦略だ。大統領はその後法案に同意し、秋の改選を控えた多くの議員も支持に回り、可決された。

だが、米カリフォルニア州サクラメントに住む元米海兵隊員の保護司、ジム・クックさん（61）は「政治家は選挙の時だけ帰還兵の問題を語り、愛国心をアピールする道具に使う」と不信感を隠さない。クックさんは昨年、

奨学金の上限は約20年近くほとんど変わっていない。「冷戦の崩壊後、帰還兵支援の予算は軽視されてきたからだ」とクックさんは指摘する。退役軍人省で帰還兵の補償認定が遅れている背景にも、予算不足がある。

「帰還兵の問題は、大多数の国民にとっては人ごとなのだ」。クックさんは淡々と語った。「米カリフォルニア州で政治

明子、写真も」――つづく



米国の戦いと

第2部 疲弊する兵士

脳損傷の回復期間

米南部バージニア州のシャーロットビルにある米国防総省医療施設「レイクビュー神経診療所」。イラクやアフガニスタンでの戦闘で外傷性脳損傷(TBI)や心的外傷後ストレス障害(PTSD)を患った帰還兵らを専門的に治療している。退院間際の患者には社会復帰の足慣らしとして近くの病院や本屋で無給のアルバイトを経験させている。「ゆっくりに時間をかけ

て、自信を取り戻すことが大切なのです」。診療所のドン・ニダファ精神科医が話す。病院のカウンセリングでは回復したように見えても、自立して日常生活を送るにはさらに時間がかかるという。ニダファ医師による



「実際に働いてみるのが自信につながる」と話すニダファ医師。バージニア州シャーロットビルで4月

過小評価に警戒感

ない、という趣旨だ。だが、これらにTBI治療で著名な民間病院の医師らは「まだ発症のメカニズムすら分かっていない。断言するのは時期尚早だ」と反発。一部メディアが対立ぶりを報じた。

部の調査書は「脳が成育途中の24歳以下の者が繰り返してTBIを受ける」と、生涯治らなかつたり、「死亡する」と指摘。兵士のTBIの「2割は症状が長期に、あるいは生涯続く」と明記している。関心の高まりをけん制するような軍医らの言葉の裏には、対テロ戦争の長期化で人員不足が続く中、兵士の間には不安が広がることへの強い懸念がある。民主党のバスケル米下院議員は「軍医らの発言が、国の治療や障害補償の縮小化を狙うものでなければいいが」と警戒感を示している。米南部バージニア州で大治



米国の戦い

第2部 疲弊する兵士

と、ここで治療した兵士のTBIは3〜6カ月で

ほぼ回復する。だがTBIの回復期間については医師の間でも「見解」が分かれる。

「ほとんどの兵士のTBIはすぐに回復する」。陸軍准将のサットン軍医は今年3月、一部米メディアとの会見で断言し

た。さらに別の軍医は同4月発表の論文で「国防総省や軍はTBI問題を過剰に強調している」と内部批判した。TBIはオバマ大統領が「対テロ戦争特有の負傷」と呼ぶなど注目を集めるが、実際には重く見るべきでは

と話す。08年の米陸軍内

部には重く見るべきではない、という趣旨だ。だが、これらにTBI治療で著名な民間病院の医師らは「まだ発症のメカニズムすら分かっていない。断言するのは時期尚早だ」と反発。一部メディアが対立ぶりを報じた。

部の調査書は「脳が成育途中の24歳以下の者が繰り返してTBIを受ける」と、生涯治らなかつたり、「死亡する」と指摘。兵士のTBIの「2割は症状が長期に、あるいは生涯続く」と明記している。関心の高まりをけん制するような軍医らの言葉の裏には、対テロ戦争の長期化で人員不足が続く中、兵士の間には不安が広がることへの強い懸念がある。民主党のバスケル米下院議員は「軍医らの発言が、国の治療や障害補償の縮小化を狙うものでなければいいが」と警戒感を示している。米南部バージニア州で大治